





静かなる心

あはれなる心

あはれなる心

あはれなる心



Handwritten cursive text, likely a signature or name, written vertically on the right side of the page.

Handwritten cursive text, likely a signature or name, written vertically on the right side of the page.

Handwritten cursive text, likely a signature or name, written vertically on the right side of the page.

Handwritten cursive text, likely a signature or name, written vertically on the right side of the page.

Handwritten cursive text, likely a signature or name, written vertically on the right side of the page. A red mark is visible above the first character.

A rectangular stamp or seal impression, containing illegible characters, located below the main signature on the right side of the page.

Handwritten cursive text, likely a signature or name, written vertically on the right side of the page.

Handwritten cursive text, likely a signature or name, written vertically on the right side of the page.

Handwritten cursive text, likely a signature or name, written vertically on the right side of the page.

秋の風をしのぎて花の香をたぐはむ

秋の風をしのぎて花の香をたぐはむ

秋の風をしのぎて花の香をたぐはむ

秋の風をしのぎて花の香をたぐはむ

秋の風をしのぎて花の香をたぐはむ

秋の風をしのぎて花の香をたぐはむ

秋の風をしのぎて花の香をたぐはむ

發秀

秋の風をしのぎて花の香をたぐはむ

秋の風をしのぎて花の香をたぐはむ

あふらふまはるのこころ

あふらふまはるのこころ

あふらふまはるのこころ

あふらふまはるのこころ

あふらふまはるのこころ

あふらふまはるのこころ

あふらふまはるのこころ

雲雨

あふらふまはるのこころ

飛燕の後の花も暮つて

枝を夜明けの朝つら

井戸のほとりかたの草

春の風のそよぐ

春の風のそよぐ

平 因毛

春の風のそよぐ

春の風のそよぐ

春の風のそよぐ

我々の子の女の角力丸

阿波の嵐の梅の傍草

雄ねの道へ行く人の足音

我々の心は海に沈む

我々の心は海に沈む

我々の心は海に沈む

我々の心は海に沈む

我々の心は海に沈む



兼子とてはしるべきにあらざる

兼子とてはしるべきにあらざる

兼子とてはしるべきにあらざる

兼子とてはしるべきにあらざる

115

兼子とてはしるべきにあらざる

兼子とてはしるべきにあらざる

兼子とてはしるべきにあらざる

兼子とてはしるべきにあらざる

我身舟りしる、お後の玉成

兼、女せりりおある、白菊

掃除しそ夕涼しき異涼店

昔の舟りしる、お後の玉成

上り舟りしる、お後の玉成

あ  
雷 待雨飾  
くぬて執陳

本海、おの玉成の玉成

我、おの玉成の玉成

花の香りに誘はれし  
花の香りに誘はれし

花の香りに誘はれし  
花の香りに誘はれし

花の香りに誘はれし  
花の香りに誘はれし

花の香りに誘はれし  
花の香りに誘はれし

花の香りに誘はれし  
花の香りに誘はれし

花の香りに誘はれし  
花の香りに誘はれし

花の香りに誘はれし  
花の香りに誘はれし

花の香りに誘はれし  
花の香りに誘はれし

天竺の草花の如く

花の傍に足跡を踏む

病の瘡を治す

月半の影の如く

天竺の草花の如く

花の傍に足跡を踏む

病の瘡を治す

月半の影の如く

羊子... 田...

羊子... 田...

十  
九

羊子... 田...

羊子... 田...

羊子... 田...

發秀

羊子... 田...

羊子... 田...

羊子... 田...

あはれなる心持の御座りませう

あはれなる心持の御座りませう

あはれなる心持の御座りませう

あはれなる心持の御座りませう

あはれなる心持の御座りませう

あはれなる心持の御座りませう

あはれなる心持の御座りませう

あはれなる心持の御座りませう

あはれなる心持の御座りませう

あはれなる心持の御座りませう

あはれなる心持の御座りませう

あはれなる心持の御座りませう

あはれなる心持の御座りませう

あはれなる心持の御座りませう

あはれなる心持の御座りませう

あはれなる心持の御座りませう

持付より古刀一振も露らる

巻も自惚るゝ足すゝ大幸

風を吹く海鳥大根様にて

~~花~~んらんらん海すゝ時

花り結ぶるるるるるるる

花り研結ぶるるるるるる

花り研結ぶるるるるるる

花り研結ぶるるるるる

雀乃泡丁



評  
一  
張  
張









